

2026年 9月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	115.6
阪神梅田本店	100.6
支店計	103.6
全店計	109.5

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

○ 全店の概況

- ・月の前半は、前年の阪神タイガース優勝記念セールの売上高実績が大きく影響したが、中旬以降、特に大型連休のシルバーウィークを中心に活況を呈し国内顧客の売上高は前年を上回った。免税売上高も前年に対し大きく伸長、全店合計の売上高は約1割増と好調継続。都心店合計は、阪急本店が牽引し、前年に対し約1割増と高伸。
- ・中国からの観光客の売上高は前年の約3割減と厳しい状況が継続するものの、中国を含む海外VIPは前年に対して約6割増と高伸。免税売上高全体としては3月以降継続して前年を上回る。また前月に続き、同月の対比において過去最高の免税売上高を更新。
- ・阪神梅田本店は、前年のタイガース優勝セールの売上高実績によるマイナス影響が大きかったが、大型催事の連打や、中旬以降の趨勢回復なども寄与し、前年並の売上高と健闘。

○ 阪急本店の概況

- ・国内顧客および免税売上高が、前月に続きいずれも同月の過去最高を更新。店舗合計としては、同月の売上高の対比において3ヶ月連続で過去最高を更新。特にシルバーウィークは来店客数が連日前年に対して2ケタの伸びで推移し、幅広い層のお客様がご来店され賑わいを見せた。
- ・5・6階『HANKYU LUXURY』を中心に、高額商材の売上が牽引し全館の100万円以上の商品売上高は前年に対し約3割増と引き続き大きな伸びを示した。インターナショナルブティックは前年の売上高に対して約4割増と高伸、引き続きブライダルニーズの好調なアクセサリも約2割増と大きく売上を伸ばした。また、外商VIP顧客向けの催事が過去最高の売上高を更新。
- ・月を通して雨天が多かったが、最高気温が30℃を下回る日も多く、秋物ファッションが高稼働。モード・コンテンポラリーファッションや婦人靴は、前年の売上高に対して約1割増と高伸。アイテムでは、ジャケットやコートなどのアウターや、ショート・ロング共にブーツが好調。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2025年度							2026年度					
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
阪急本店	99.2	104.9	100.7	93.2	100.7	95.9	107.0	111.7	117.0	117.8	116.6	109.7	115.6
阪神梅田本店	134.0	112.7	122.9	107.4	136.5	126.3	119.2	127.2	126.0	111.9	116.8	105.6	100.6
支店計	99.4	102.6	102.8	97.1	101.4	99.0	101.5	105.1	108.6	100.9	104.1	102.1	103.6
全店計	103.2	104.9	103.6	96.0	104.1	99.8	106.4	110.9	115.1	111.1	112.2	106.6	109.5

■ 食品事業

食品スーパー計	売上高前年比(%)
既存店 計	97.7

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL:06-6367-3181